

1 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査の結果について

① 全国学力・学習状況調査 正答数の分布状況				② 「基礎・基本」定着状況調査 正答数の分布状況		
教科等	A問題	B問題	特徴	教科等	教科全体 (タイプI・II)	特徴
小学校 (対象 第6学年)	<p>30%未満 60%以上 本市 2.9 全国 4.7 本市 75.9 全国 70.6</p>	<p>30%未満 60%以上 本市 9.5 全国 11.3 本市 66.1 全国 62.1</p>	A問題・B問題ともに分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。A問題・B問題ともに30%未満の児童の割合は全国平均より低く、60%以上の児童の割合は全国平均より高い。	国語		分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。30%未満の児童の割合は低い。
	<p>30%未満 60%以上 本市 3.2 全国 3.5 本市 80.2 全国 78.3</p>	<p>30%未満 60%以上 本市 24.5 全国 25.2 本市 31.7 全国 30.8</p>	A問題は分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。B問題は中央が高い山形になっており、ばらつきが大きい。A問題・B問題ともに30%未満の児童の割合は全国平均より低く、60%以上の児童の割合は全国平均より高い。	算数		分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。30%未満の児童の割合は低い。
	<p>30%未満 60%以上 本市 8.6 全国 10.4 本市 56.9 全国 54.4</p>		分布は右よりの山形になっているが、ばらつきが大きい。30%未満の児童の割合は全国平均より低い、他教科A問題よりは高く8.6%である。60%以上の児童の割合は全国平均より高いが56.9%である。	理科		分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。30%未満の児童の割合は低い。
中学校 (対象 第3学年)	<p>30%未満 60%以上 本市 2.3 全国 2.2 本市 83.0 全国 83.2</p>	<p>30%未満 60%以上 本市 6.9 全国 7.2 本市 44.8 全国 45.2</p>	A問題・B問題ともに分布が右よりの山形であり、学習内容はおおむね定着していると見られる。A問題では、30%未満の生徒の割合、60%以上の生徒の割合が全国平均と同程度である。B問題では、30%未満の児童の割合、60%以上の生徒の割合が全国平均より低い。	国語		分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。30%未満の生徒の割合が低い。
	<p>30%未満 60%以上 本市 8.6 全国 8.4 本市 57.4 全国 58.1</p>	<p>30%未満 60%以上 本市 38.1 全国 38.1 本市 22.6 全国 23.0</p>	A問題は分布が右よりの山形になっているが、ばらつきが大きい。B問題は左よりの山形になっており、ばらつきが大きい。また、B問題では、30%未満の生徒の割合が全国平均と同程度で高く、中央より下位の層も相当数いる。	数学		分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。昨年度と比べ、中央から下位の層に改善が見られる。
	<p>30%未満 60%以上 本市 21.9 全国 19.1 本市 34.9 全国 37.9</p>		分布ははっきりとした山形になっておらず、ばらつきが大きい。30%未満の生徒の割合は、全国平均より高く、60%以上の生徒の割合は全国平均より低い。中央より下位の層も相当数いる。	理科		分布が中央によった山形であり、基礎的・基本的な学習内容の定着にやや課題が見られる。昨年度と比べ、30%位の層に改善が見られる。
				英語		昨年度と比較すると、中央から下位の層が減り、基礎的・基本的な学習内容の定着に改善が見られる。